
アナザーフォーチュン

すごろく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アナザーフォーチュン

【Nコード】

N2538Q

【作者名】

すじろく

【あらすじ】

『アナザーフォーチュン』

それは魔法ではない、もうひとつの存在。

2日前の出来事

「俺が……負けた？」

足が震え、汗が頬を撫でる。鉛のように重くなった身体は、その場に崩れ落ちた。

「やっぱり、あたしの勝ちみたいね」

目の前の少女　おそらく自分と同年代だろう。

彼女は余裕の笑みを浮かべ、軽い口調で勝敗を告げる。

俺たちを遠目で見ていた民衆達は、すでに立ち去っていた。

信じられない

王宮騎士だと聞いて油断は無かった。むしろ冷静だったはずだ。

それなのに手も足もでない。この差はなんだ……？

「ねえ」

少女の声で思考が途切れる。俺は俯いたまま返事をした。

「どうした」

「戦う前にあたしが言った約束、覚えてる？」

「騎士団に入れてハナシだろ」

「うん。あたしの部下として騎士団で働いてほしいの」

「お前に傷ひとつ付けられない。……そんな奴が必要か？」

自嘲気味に呟く。それほど少女との『差』を痛感していた。

「弱くないよ。あなたは強い」

少女の目は俺をしつかり見据え、そして優しく微笑む。

「その台詞、アンタに言われても虚しいだけだ」

「うーん、それもそうだね」

「ただ、と少女は言葉をつなげる。

「君の身体能力は、騎士団の中でもトップクラスだよ。魔力もそれなりにある。唯一マイチなのは、武器の扱いくらいかな」

驚いた。思わず目を見開く。剣術は独学で覚えたものだ。

しかし、自信が無かったわけではない。それを『マイチ』と評価した彼女の剣技は、確かに俺のそれとは、比べ物にならなかった。

「アンタ、名前は？」

「あたし？ あたしの名前は」

騎士団に興味があった訳じゃない。

ただ、彼女の持つ『次元多面体』アナザーフォーティンが、俺の脳裏から離れなかった。

第一話 はじまりの朝（上）

騎士寮の朝は早い。

俺は眠い目をこすりながら、ベッドから身を起こした。

「ふあ……」

壁に掛けられた古時計に目をやる。

6時。午前6時。昼起きの俺にとって、完全に活動時間外だ。そりゃ誰だって欠伸くらい出るだろう。

コン、コン

乾いた木の音が、部屋に小さく響く。

「開いてるよ」

ドアの向こうの相手に返事する。

「おはよ、リエーフ」

緑色のポニーテールを揺らし、軽く微笑する女。

「どうも。ヨルナ隊長」

ヨルナ、俺が騎士団に入るきっかけを作った女だ。とりあえず俺

の目標。外見は華奢だが、パワーもスピードも常人とは段違い。おまけに超一流の剣捌き。

さらに、相手を寄せ付けない『次元多面体』の使い手。騎士団に5人しかいない、王宮騎士の称号を持つ1人。そして性格も良く、顔も上の上。国民から最も人気のある騎士。……なんだ、この完璧過ぎる要素は。

「ど、どうしたの？ 枕叩いたりして」

「いや、なんでもない。今日も騎士寮の見学でいいのか」

ラルナが思い出したように顔を上げると、首を横に振った。

「実はね、騎士団に入るには試験を合格する必要があるの」

「試験？」

「そう。あたしの際は魔物の討伐が試験だったけど、リエーフには別の試験が用意してあるみたい。今日の午後が試験日になっちゃったけど大丈夫だよな」

「へえ、まあ俺はどんな試験でも、何時でも構わないけどな」

「あはは……そう言うと思った」

「すぐに着替える。部屋から出てくれ」

試験などラルナに近づくための通過点にすらならない。それより朝食の方が優先だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2538q/>

アナザーフォーチュン

2011年2月2日15時43分発行